

13

一般社団法人 日本駆け込み寺

□公開日時:平成 24 年 9 月 3 日(月)

□相談年度:平成 22 年度

■「高校に行け」とうるさい母親に暴力をふるう息子■

～家族を顧みない父親×干渉する母親～

「息子が高校にも行かずに暴れて困る」そう言って相談に来たのは、17歳の少年の母親だ。母親は「せめて高校ぐらい行ってほしい」と懇願する。

「両親が彼を信じて見守り始めたことで、彼は夢に向かって歩き出した。」

■仮名：加山さん

■年齢：40歳

■性別：女性

■問題：家庭内暴力

【子供からの暴力というSOS】

父親は会社員、母親は専業主婦、妹はふたつ年下。4人家族である。啓太(仮名)は高校に入学したものの、「何となくイヤになって」、1年生の秋から学校に行かなくなり、2年生に進級できず、結局そのまま学校をやめた。母親は「せめて高校ぐらい卒業してほしい」と思うのだが、それを言うと、母親の肩をこぶき、ものを投げつける。父親はいつも忙しくて家にいない。母親はそれに対して愚痴をこぼしてばかりだ。そんな環境が啓太の家庭内暴力の原因のひとつかもしれない。だが、基本的には両親がちゃんとしつけをしなかったからこんな事になってしまったのだと思う。

父親は家庭を顧みないので、いつも母親は啓太に愚痴をこぼしていて、啓太は小学校高学年になると、「お母さん、そんなに嫌だったら別れたら？」と何度も言った。でも決して別れようとはしない。「いつも文句ばかり言っているのに・・・」ずるさを感じて母親に苛立っていた。そして、何とくだらない親だと思ってしまうようになっていった。

【高校を卒業するだけが道ではない】

「高校に行っても意味がないと思っているのだったら、行かなければいいじゃないか。ところで何かやりたいことはあるの？」と私が聞くと、啓太は「別れない」と言った。「いつか、高校に行かなかったことを親のせいにするなよ。自分の人生を決めるのだったら、今からやれ。自己責任の名のもとに。それから、いっばしの大人のようなふりをしているけれど、もしおまえが警察に引っぱられたら、必ず親が責任をとらなきゃいけない。親権者は親だからね。たとえば、おまえが車に乗って人をはねたとする。そうしたら親に責任がいくんだ。そういうことわかっているの？」「何で親にいくのですか？」「法律で未成年の監督義務は親と決まっているから。だから、事件を起こしても少年AとかBとかになるんだよ。実名が出ない。20歳になったら、実名が出るけどね」啓太は、自分は親に面倒を見てもらっている、食べさせてもらっているんだということを認識したようだった。そうやって話をしていたら、実は啓太はミュージシャンになりたいという夢があり、ケーキが好きだからパティシエにも興味があることがわかった。だったら、可能性のあるものをかたづけしからやってみたらいい。職人の世界に高卒の資格は必要ない。そうやって考えると選択肢はいっぱいあって、高校を卒業するだけが道ではない。2～3年を棒に振るなら、若い10代のときのほうがいい。傷は多少だったらすぐ治るから。20歳をすぎたら、そういうわけにはいかない。傷は深くなる。

【親は静かに見守ることが大事】

そうやって話を進めているときに母親から出てきた言葉が「うちのお父さんがなんて言うか・・・」。数日後、父親が来た。「今まで、あんたは家庭に存在していなかった。だけど、せめて今回は存在しようと思ったらどうだ。今さら家庭内に戻って息子と仲良くしろとは言わない。ただ息子には、「好きなことをやってみろ。ただし、お前が勝手にやるのだから自分で稼いでやれ。外泊するなら外泊するで、親にしっかり連絡すること。当たり前のことを当たり前に行ったらいい」。遠くからでも見守ってくれる親がいれば、子供は道に迷わない。

何でもやってみたらいいのだ。親にしてみれば無駄な人生、くだらない人生と思うかもしれないけど、子供にとっては大いに有意義なことだと思う。高校や大学を出ても、それから道に迷って脱線してしまうよりよっぽどいい。若いときのほうが体もよく動かし、エネルギーがあるし、頭も柔軟だからやり直しも早い。今回のケースで言えることは、まず「親はドンと構えること」だ。特に、家庭に無関心な父親はドンと構えて、細かいことをごちゃごちゃ言わない。今回のような母親には子供にしがみつかずに、自分の人生を歩みなさいと言いたい。

【ここが POINT】

このケースで大切なことは、啓太が暴力や暴言に頼らないで、自分をコントロールする方法を身につけられるようにすることである(つまり将来、DV男にならないようにする)。彼の暴力のエネルギーを、彼がプラスに伸びていくためのエネルギーに変えていくのだ。その為には、彼の話しを真剣に聞くことだ。子供だからと言って侮らない。子供なりにしっかり考えているものだ。そして「おまえならやれる」と信頼し、応援してやる。親は子供の世話ばかり焼いていないで、夫婦関係の修復やら、自分のこれからの人生を真剣に生きることのほうが、子供にはいい影響を与えられる。子供にバラサイトしてはいけない。子供は自分の分身ではないし、ましてや所有物ではないのだ。



出張駆け込み寺の視察で訪れた石巻周辺の風景